兵庫県佐用町における地域公共交通活性化・再生総合事業

21～23年度

交通空白地が町域の多くを占める佐用町では、生活上必要な施設までのアクセスの確保及び公共交通の過疎・少子高齢化等に伴う利用者の減少が課題となっており、地域交通の確保と充実の必要があることから、既存交通の現状や利用者ニーズ調査を実施し、公共交通の利用促進策及び新しい生活交通導入等の検討を行い、公共交通の維持・確保と生活交通の創造を目的に、佐用町地域公共交通連携計画を策定し、交通体系の構築を図る。

【佐用町公共交通対策協議会】

（委員）佐用町、学識経験者（大阪大学）、佐用町議会、兵庫県西播磨県民局、兵庫県警察、神姫バス、ウエスト神姫、タクシー事業者（5社）、自治会連合会、民生委員会、身体障害者福祉協会、老人クラブ、社会福祉協議会、江川地域交通会議、県立佐用高校、商工会青年部、教育委員会

（オブザーバー）JR西日本、智頭急行、神戸運輸監理部、兵庫県交通政策課

事業の概要（21年度）

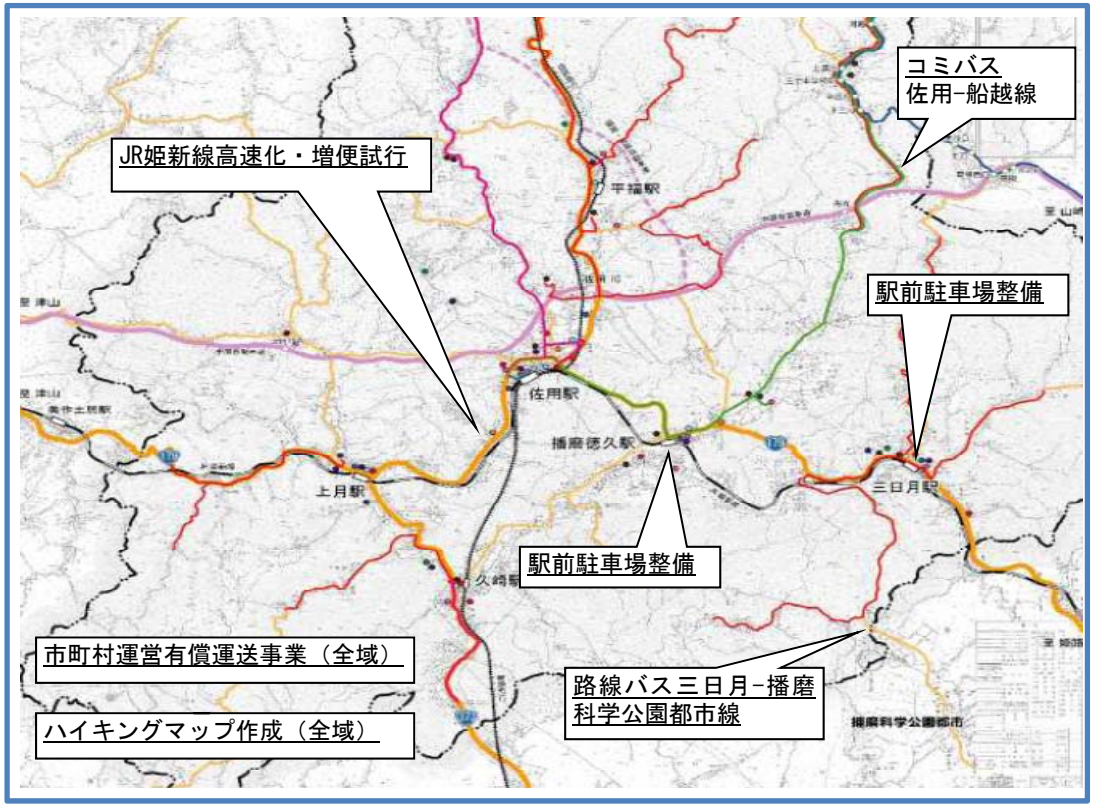
●駅周辺施設整備事業

・駅前駐車場整備（播磨徳久駅17台・三日月駅10台）　2,854千円

●鉄道利用促進事業（他事業・H22.3.13～）

・社会実験による増便

・高速化運行



●コミュニティバス佐用～船越線実証運行（休止代替）

・1日3往復　11月実証運行開始

●路線バス三日月駅～播磨科学公園都市線実証運行

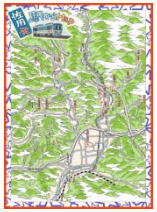
・1日3往復　10月実証運行開始

●デマンドバス実証運行・車両購入

・10月：車両購入、法定登録完了　11月：実証運行開始

●ハイキングマップの作成

・駅を基点としたハイキングコースの設定とマップの作成　735千円



21年度 導入への プロセス

交通空白地が町域の多くを占めている佐用町では、生活上必要な施設までのアクセスの確保及び公共交通の過疎・少子高齢化等に伴う利用者の減少が課題となっており、地域交通の確保と充実の必要がある。

駅までのアクセスのために路線バスなどのフィーダー交通を確保することで、公共交通間の連携を図り、より利便性を向上させていく。

沿線自治体と協調してH2年より複線電化の要望活動と姫新線の利用促進活動を行ってきたところであるが、輸送改善を早期に図りたいため、沿線自治体の支援により線路設備の改良（H18年～H21年）が行われ、H21年3月には新型ディーゼル車両を導入、利便性向上・高速化を図ることとした。また、本年度（H22年3月13日からH24年3月）2年間増便の実証運行を実施する。

21年度 事業の 効果

観光による利用促進

姫新線の各駅を中心に4種類のハイキングマップを作成した。また、町のHPにも掲載予定でもあり、今後、鉄道事業者と連携を図りながら、新たな観光客の利用促進を進めていく必要がある。マップに見所の紹介を載せて活用していく予定です。

潜在需要の掘り起こし

播磨徳久駅（17台）及び三日月駅（10台）周辺にあった遊休町有地を活用し無料駐車場を整備した。

町広報による啓発を行い、H22年4月1日から共用を開始し、現在では、駐車台数の約半数が利用されている。今後も鉄道利用を促すためにP＆Rの利用促進の啓発に努めていく。

他モード（バス事業）との連携による利用促進

バス事業の実証運行を始めたことで、路線バスは利用率が低調であったが、コミバスは1日平均16人以上で想定以上の利用があり、デマンドは毎月1,100人以上（1日約45人）の方に利用された。いづれも、年度の途中（10月、11月）から実証運行を始めたものであるが、成果として少しずつ現れている。

次年度 以降

今後の公共交通の維持・確保と生活交通の目的に交通体系の構築を図っていく。

沿線におけるPRの啓発活動を展開して、ハイキングマップを活用したイベントなどの企画をたてて新たな観光客の掘り起こしをしていく。

H21年度のバスの実証運行を踏まえ今後の利用者の動向をみながら、地域交通としての成果や効率的な交通体系を図っていくことが必要である。

JR姫新線の輸送改善事業において、年間乗車数238万人に対して300万人（H24年）を目標に利用促進活動を展開している。新型ディーゼル車両の導入で速達性、快適性の向上を進めるとともに、H22年3月から2年間の増便試行を展開し、H24年の本格ダイヤ改正に向けて鉄道の利用促進と沿線地域の活性化を図っていかなければならない。